6月2日
2022年
（令和4年）
木曜日
第20061号（日刊）
土、日曜・祝日は休刊

鉄鋼新聞
Japan Metal Daily

鉄骨・鉄筋など建材加工業

外国人実習生の復帰進む

夏以降の高稼働に対応

鉄骨や鉄筋を扱う建材加工業者に、外国人技能実習生が復帰し始めた。国は3月から外国人の新規入国制限を緩和し、新型コロナウイルス感染拡大防止のための待機期間も短縮した。4月以降に来日した実習生は約1カ月間の日本語学習などを経て、続々と実習先企業に配属されている。受け入れ先企業は「建築需要の拡大が見込まれる夏までに、なんとか人員手当てのめどがつきそうだ」と安堵。一時懸念された建設用鋼材の加工面での人手不足不安が後退した。

松山鋼材ではインドネシア人実習生が徐々に工場へ復帰している

慢性的な人手不足に悩む建設関連業界で、実習生は貴重な〝戦力〟として鋼材加工業者や鉄骨ファブリケーター、鉄筋業者が受け入れ拡大を進めてきた。だが2年前の新型コロナウイルス感染拡大に伴う水際対策で入国者はゼロに。一方で期限を迎えた実習生が次々に帰国したため作業者が大幅に減り、一部の業者は受注を抑制せざるをえなくなった。

感染拡大が収まり始めた昨年秋には入国制限緩和が予定されていたが、再び悪化したため中止となった。インドネシアから多くの実習生を受け入れてきた松山鋼材（本社・千葉県旭市）の向後賢司社長は「ようやくコロナ禍前に戻ると期待した矢先だっただけに、落胆も大きかった」と振り返る。

同社は鉄骨二次部材の胴縁加工などを手掛け実習生も溶接など各種資格を取得して現場勤務をこなしてきた。コロナ禍以前は最大で36人いたが、この2年間で21人まで激減していた。今回の緩和では4年目に入る実習生12人が再び入国。6月には2年ぶりに新人6人を迎える。9月までに40人まで増えるという。向後社長は「実習生は勤勉でこの10年は本当に助けられた」と振り返り「しっかり当人らが稼げるように受注高を伸ばし、業容も広げたい」と話している。